

令和7年度学校評価アンケート

文責:教務主任

資料「葵西小学校評価アンケート 4年間の推移」より、成果と課題をまとめました。

知の部	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の評価の平均が、昨年度に引き続き 80%以上であった。 ・ 項目「話を最後まで聞いている」では、91%と高い評価であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中、わからないところをそのままにしている児童が全体の3分の1もいる。 ・ 全体的に保護者の評価が昨年度より落ちている。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習がわからないままで、不安を感じている児童がいる。 ・ 保護者も、児童の学習に向き合う姿勢に不安を感じている。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き各教科で基礎基本を大切にし、来年度も高学年を中心に教科担任制を活用しながら分かりやすい授業を実現する。 ・ ICTを活用しながら、効率よく深い学びの実現に向けて分かりやすい授業を実現する。 ・ 昨年度同様に、キャリア教育を意識した授業を実践することができた。未来の自分につながる学びであることを児童と確認しながら学習を進めたい。

徳の部	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目「わたしは、友達の良いところを知っている」では、児童の評価が93%、保護者の評価が90%と高い評価であった。 ・ 全体的に、ここ4年間で最も高評価が多かった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目「学校生活で、わたしは自分なりに頑張ったな、自分を褒めてもいいなと思えるときがある」では、児童78%とやや低い評価となった。 ・ 自己肯定感が低い傾向が見られる。友達のよさは認められても、自分への評価は厳しくなっている。 ・ 軽はずみな言動により、他者を傷つけるという実態がまだまだある。そのことを多くの児童は自覚しているため、自律・自制するための方策が必要。いじめにつながらないように十分留意する必要がある。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 失敗を経験しながら成長していく場所が学校であることを、児童が感じられるよう引き続き学校と保護者が連携して伝えていきたい。 ・ 「命について考える日」「いじめ撲滅集会」等を継続して実施していくことで友達も自分も大切にできる心を育てる必要がある。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度同様に「自他を認める思いやりの心」を育て、「自分の良さや頑張りを認められる」児童の育成を図るために①から④について重点的に実践する。 ①児童一人一人が安心して活動でき、称揚される場を増やす。

	<ul style="list-style-type: none"> ②児童が友達と支え合いながら仲良く生活できる学級経営の基盤を作る。 ③学校生活全般を通した仲間づくり、集団作りを大切する。 ④本年度に引き続き、いじめ撲滅をテーマにした代表委員会や全校集会などの取り組みを行う。
--	---

体の部	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の評価は、約90%前後と高い評価であった。 ・項目「学校生活で、わたしは心や体が元気でいられるように気を付けている」では、児童91%、保護者92%と高い評価であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・項目「学校生活で、わたしはめあてを立てて、運動や勉強をがんばろうとしている」は2年前と比較してやや評価が低くなっている。 ・項目「学校生活で、わたしは進んで体を動かしたり、力いっぱい体育を頑張ったりしている」の保護者の評価がずっと低い。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことに苦手意識を持っている児童に対し、自分なりのめあてを立てて活動に取り組みせ、達成感を体感できるようにしていく必要がある。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「笑顔あふれる」学校生活を送るためにできる取り組みを実践したいこと。 ①「健やかな新進」の育成のために、基本的な生活習慣を定着させ、さらに体力・健康を保持増進すること。 ②「安心安全な学校」のために、自身と他者の安全を考えて行動できるように促す。 ③安全で健康的な生活をめざし「基本的な生活主幹の定着」「保健指導」「防災・安全指導」のさらなる充実を図る。 ・「挑戦する姿勢」を育てるために実践したいこと。 ①学年イベントを計画・実施する。計画的に練習期間や準備期間を設け、スモールステップで活動を行う。 ②持久走記録会に向けて、自主的・継続的な体力づくりを行う場を設けるなど、体を動かしたくなる仕掛けを用意する。

まとめ

それぞれの項目において、「(あまり)あてはまらない」児童や保護者もいることを忘れることなく、引き続き誰もが通いたくなる葵西小学校を目指すための実践を重ねていく。そのためにも来年度も継続して自己肯定感と自己有用感を高める支援を心掛けていく。

また本年度と同様にさくら連絡網やブログ等を活用し、迅速な情報伝達、情報共有ができるように意識していく。